学校目標『自ら気づき 考え 実行する生徒』

# もいわ南麓

札幌市立藻岩中学校
学校だより　No.16
令和7年３月14日
TEL 011-571-6039
https://www.moiwa-j.sapporo-c.ed.jp/

## 第７６回　卒業式式辞

札幌市立藻岩中学校長　　富川　浩

３年生の皆さん、卒業おめでとう！心から皆さんのご卒業を祝福します。本日、保護者の皆様と共に、第76回卒業証書授与式を盛大に挙行できますことを大変嬉しく思います。

今、皆さんは、中学校の卒業証書を手にして、義務教育を終えようとしています。唐突な問いかけになりますが、皆さんは今、大人でしょうか。それとも子どもなのでしょうか。成年年齢が引き下げられとはいえ１８歳未満なので子ども、地下鉄の料金は大人です。

つまり、皆さんは、生活していく上での立場や場面で、子どもでもあり、大人でもあるということです。何か中途半端な感じは否めません。それでも、これからは誰からも認められる大人になるよう、心身ともに確実に成長していきます。

誰しも生まれてすぐの頃は、自分の身の回りのことは何もできません。ここから家族をはじめとする周囲の人たちの献身的なお世話を受けることで成長していきます。「自分のことは自分でできる」ということから、徐々に周囲の人たちにも目を配ることができるようになっていき、やがて自分自身も「誰かのお世話をする側」の立場へ。そうした変化も「大人になる」ということではないでしょうか。

また、家族や友人などの身近な人のことだけでなく、地域のこと、札幌のこと、日本全体のこと、さらには世界のことへと視野を広げ、「その一員としての自分自身にできること」を考える。「大人になった」時には、法律で保障される自由や権利だけでなく、大人としての生き方についても考えを深めたいものです。誰もが成長の過程では、時代の流れ、育った地域の風土や家庭環境など、様々な物事の影響を受けます。周囲から受ける影響は、自分ではどうしようもないこともあります。しかし、「今の自分の心の在り方」は、自分自身が自由にできるものです。それは明日の自分を変える大きな力にもなります。この先も長く続いていく皆さんの人生を安心と喜びに満ちたものにするためには、絶えず自分の心を成長させていく必要があります。今、私たちの生活は大きな変化を迫られる中で、自分のことだけを考えるといった傾向が強くなってきていると言われています。もし、私たちが知らず知らずのうちに「自分さえよければ」という思いを膨らませていったなら、社会の安定も自分自身の安心も失われていくことでしょう。より良い社会があってこそ、私たちは安心して暮らしていくことができるのです。しかし、必ずしも理想通りにはいかないという、人間としての弱さをもっています。そうした不完全さをもつ人間だからこそ、事あるごとに自分の心を省みて、自分に対しても、さらには周囲の人や社会に対しても誠実な「大人としての生き方」を志したいものです。

皆さんは小五の時、新型コロナウイルス感染症が急拡大し、臨時休業や行事の大幅な変更を経験しました。その後、１人１台端末が導入され、授業への取り組み方も大きく変わりました。皆さんはそれに柔軟に対応した力をもっています。きっとこれからも様々な困難を乗り越えていくことでしょう。

年齢を重ねていくと、体の成長は止まります。体力や記憶力なども衰える時を迎えることは誰しも避けられないことです。しかし、心の成長には限界がありません。皆さんのたゆみない心の成長を願っています。

保護者の皆様に申し上げます。小学校から九年間、毎日、お子様の健やかな成長を願い、心を砕いてくださったことと思います。本日のお子様のご卒業は、思い一入のものがあると感じ、ここに改めてお祝いを申し上げます。ＰＴＡ活動においても「優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰」を受けられるなど、「常に子どもたちのために」を理念とし、これまで本校の教育に温かいご理解とご支援を賜りましたこと、高い席からではありますが厚くお礼申し上げます。

また、ご来賓の皆様には今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりましたが、藻岩中学校の第 76 期の同窓生として、皆さんの夢や希望があふれる前途を祝して式辞といたします。

# 卒業生答辞

卒業生代表　櫻庭 琉々花

雪解けが進み、暖かい春の光をまとう季節となりました。この佳き日に心の籠った式典を行ってくださり、誠にありがとうございます。そして、ご多忙の中ご臨席いただいた、ご来賓の皆様方、校長先生をはじめ教職員の皆様方、ご家族の皆様方に卒業生一同、心より御礼申し上げます。

3年前、真新しい制服に身を包み、期待と不安が入り混じる中、穏やかな春の風が迎え入れてくれた入学式。ここから、私たちの藻岩中学校で過ごす時間が進み始めました。

1年生となり、新しい友達との出会いやこれからの学校生活に大きな希望を感じる一方、新型コロナウイルス感染症の影響により、いまだ長引くマスク生活でみんなの顔は覆われていました。3年間このままの状況が続くのか不安な気持ちでいたことをよく覚えています。ですが、校外学習へ赴くことができたり、WBC の決勝で盛り上がったりとみんなで和気あいあいと過ごすことができたのは素敵な思い出となっています。

2年生へ進級すると、初めて後輩という存在ができ、責任感が芽生えるようになりました。先輩として後輩を引っ張っていくことができているのか、憧れられるような姿に見えているのかと心配がつきませんでした。そんな日々の隣には、いつもみんなの姿がありました。どんなに辛いときでも、みんなが隣にいるから大丈夫だと思え、安心できたことは忘れられません。

とうとう3年生となり、最後の中学校生活において1つ1つのことに全力で取り組むようになりました。学校祭と合唱発表会が合わさり新たな行事である文化祭では、3年間の集大成となるような壮大さに同級生ながら驚かされた記憶があります。各部門に分かれた活動では、各々の持っている力を存分に発揮し、最高学年らしい姿を後輩たちに示せたと思います。合唱ではクラスから学年という単位になり、何もかもが初めてで試行錯誤の連続ばかりでした。先が見えないことに、気持ちも落ちてくるようになりましたが、一人一人の心を通い合わせ、素敵な合唱を創り上げることができました。こうして中学校生活最後の大きな行事である文化祭を成功させ、気付けばあっという間に時間は過ぎていき自分自身の将来について考えるようになりました。ここに待ち受けていたのは選択の連続で迷い悩む日々でした。

そんな私たちの学校生活を支えてくれていたのは先生方でした。私たちが選んだ道を信じ、実現できるように支えてくださいました。私たちのために、ご自身の身を削る思いでサポートしてくださったことでしょう。このようなことをしていただけるのは決して当たり前ではないはずですので、心から感謝しています。そのおかげで、私たちはこれまで以上に頑張ろうとする力が沸きました。また、私たちの普段の学校生活にも常に気を配ってくださり、3年間で大きく成長できたように感じます。三年間ご指導くださり、ありがとうございました。

そして15年間、温かく見守ってくださった保護者の皆様に心より感謝いたします。私たちを見守る温かい目や励ましの言葉に何度も勇気をもらいました。本当にありがとうございました。これからは義務教育が終了し、自ら新たな道を築いていくこととなります。今以上にご心配をおかけしてしまうと思いますが、日々尽力していきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

そして、3年間共に、苦楽を歩んできたみんなには感謝の気持ちで溢れています。これまで過ごした時間を振り返ると、くだらないことで笑いあったり、話しているだけで盛り上がったり、ありふれた日常であったのかもしれません。その日々は、いつも笑顔に満ちていたことを覚えています。けれども、笑顔の裏には、誰にも理解されなく孤独だった時や周りからの期待が怖かった時、誰かと自分を比べて自分を好きでいられなくなった時があったと思います。小さな不安が積み重なるほど心も体も疲れるようで、誰かに相談したくても弱みは見せたくないと強がった時もあったのではないでしょうか。この苦しみを乗り越えることができたのは、3年間で培った確かな絆があったからです。お互いを鼓舞しあい、共に高めあい、そばにいるだけでなんだって叶えられる気もするような、かけがえのない存在で、みんなと過ごす幸せを感じれば感じるほど、いつか消えてしまうのではないかと心配に思うほどでした。みんなにはとても感謝しています。3年間ありがとう。

当たり前のようにみんなと交わしていた「また明日」。この言葉を中学校で交わすことはもうありません。いつかは来るとわかっていたはずの別れではあったものの、この場にいる今も寂しさが込み上げてきます。

しかし、私たちは今までお世話になった方々への感謝の想いを胸にそれぞれの道へ向かっていきます。よいことばかりではなく、辛いこともあるのかもしれません。ですが、暗闇の中に光が差すように、雨が降った後には虹がかかるように、辛い経験も糧に変え、振り返ったときに自分自身のことを褒めてあげられるよう進んでまいります。

結びになりますが、藻岩中学校の益々の発展と皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。